
遊戯王GX 未来から来た鯨とデュエルアカデミアのデュエル馬鹿

シャークのファン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX 未来から来た鯨とデュエルアカデミアのデュエル馬鹿

【Nコード】

N8169Y

【作者名】

シャークのファン

【あらすじ】

神代凌牙ことシャーク。彼はWDCの最中、何らかの理由によって崖から落ちてしまう。九十九遊馬に自分のエース『ブラック・レイ・ランサー』を託して…目が覚めるとそこは過去、次世代のデュエリストを育成するデュエルアカデミア！そこでシャークは最強の引き（ドロー）を持ちカードの精霊と心を通わす少年、後に伝説と呼ばれしデュエリスト、遊城十代と出会う……

ブローグ 落ちて堕ちて墜ちて行く・・・

「遊馬、離せ！」

「ダメだシャーク！」

俺は崖から落ちそうになっている。
それを遊馬が手を掴んで止めている状態。

どうしてこうなったかはわからない。だが、このままでは遊馬まで落ちてしまうのには変わりない。

「バカか！お前はデュエルチャンピオンになるんだろ！？こんなところで死ぬつもりか！」

「だからって仲間を見捨てられるかよ！」

「俺も死ぬつもりなんてねえよ！アイツとは、？とは決着をつけなきゃならねえ！」

俺は死なない。絶対に…！？と決着をつけなきゃならねえんだ。

「だからよ…離せ遊馬。」

「ヤダ！シャーク、この高さわかってんのかよ！こんなところから落ちたら確実に死んじゃうぞ！」

そう。俺の落ちかけている崖はそこも見えないほどの深さ。こんなところから落ちたら戻るところか地面とぶつかって確実に御陀仏だ。

「だからって、お前を犠牲にして落ちるつもりはねえ……！それに俺は死なないと言ったはずだぜ。」

俺は遊馬の腕を《ブラック・レイ・ランサー》のカードを投げつけて少し切る。

紙の鋭さはスゲーな……

「痛ッ！」

遊馬の力が少し抜けた瞬間に俺は腕を振り払った。

「な！シャーク！」

重力に逆らって俺の体は落ちていく。

「遊馬、それ預かつとけ！俺が帰ってきたら返せ！」

俺は《ブラック・レイ・ランサー》を手に持った遊馬に落ちながらそう言った。

「シャーク！シャークウウウウウウ！……！！！」

遊馬の叫び声を聞きながら俺は下へと意識を向ける。

地面が見えない……

結構落ちたがまだ見えない……もしかしたら底なしなんじゃないかと思っほ……

俺の意識は掠れていく……

やべえ…

意識が…

まだ、堕ちちゃいけないのに……

ハハッ、結局大口叩いてこのざまかよ…

聞いて呆れるぜ…

俺はここで終わりか…？

アイツとの決着もつけられずに？

大事な仲間との約束も守れずに？

そんなの認めねえ…

俺は闇の中で意識を落としながらそう思った。
瞬間、俺自身の体に変化が起きたとも分らずに…

ブローグ 落ちて堕ちて墜ちて行く・・・（後書き）

シャークが主人公な小説はじまりはじまり～！

さすがに連載自重します。はい。

設定

《名前》 かみしろりょうが 神城凌牙【通称・シャーク】

《年齢》 14歳・外見年齢16歳

《性格》 遊馬とのデュエルに負けてから少し丸くなり仲間宣言されてからは柔らかい笑みを浮かべるようになった

《好きな事・物》 デュエル・デッキ構築・カード・仲間

《嫌いな事・物》 イカサマ

《精霊》 ペンギン・ソルジャー

《使用デッキ》 水属性デッキ

《詳細》 この作品の主人公。

ZEXALの主人公、遊馬のライバルでありワイルドデュエルカーニバルWDCの途中に何らかの理由で崖から落ちる。

目が覚めるとGXの世界でデュエルアカデミア受験生となっていた。崖から落ちる際にエースモンスターの『ブラック・レイ・ランサー』を遊馬に渡したため現在の彼のエースは『潜航母艦エアロ・シャーク』となっている。

受験会場に行く際に道に捨てられていた『ペンギン・ソルジャー』を精霊として連れている。

GXの世界に来たときに外見年齢が16歳になっていた。

十代を遊馬に重ねて見ているので面倒見が良い（例・朝にソリッド
ビジョンでたたき起こす）。

現在の目標は遊馬との「必ず帰る」という約束を？との「決着をつ
ける」という目的を果たすため元の世界に帰る方法を見つけること
であり、アカデミアで起こる事件によく首を突っ込む。

ナンバーズ1 入学試験デュエル！VS古代の機械巨人

「っ…俺は、生きてるのか？」

手を握ったり開いたりしてみる。

動く…ってことは生きてるんだな…

「ここは…」

辺りを見回す。

公園…？どういうことだ？俺は崖から落ちたはず…

「これは…」

俺が着ているのはいつもの紫の私服じゃなくて紫のTシャツのに学ランだった。

ポケットや懷をあさっているといういろいろ出てきた。

「…デッキにデュエルディスク、って旧式じゃねえか！」

他には神代凌牙・受験番号10番と書かれた紙か。ん？これ、デュエルアカデミアって…

「デュエルアカデミア…受けるってことか？」

とりあえず、行ってみるか。

場所は海馬ランド…

周りには誰もいねえし不満をぶつけるか…

「すうー…わかるかああー!!」

『うるさいペン!!』

!?

「何だ今の声…?」

茂みの方から聞こえて…

ガサッ

「…」

カードが1枚あるだけだ…

「まさかカードが喋ってたなんてことは…ねえな。」

しかしずいぶん汚れてるな…拭くか?

「《ペンギン・ソルジャー》? 古いカードだな。」

『古いとは失礼ペン!』

「!?!?」

ズザザザッ！！

思わず地面に尻餅を突いて後ざすりした。

「な、何だ今のは…？」

カードが喋っただと？

巷でカードの精霊の話は聞いたことがあったが、嘘だろう？まさか本当に…

『酷いペン酷いペン！』

「お、お前なのか？《ペンギン・ソルジャー》…」

俺の目の前に半透明な《ペンギン・ソルジャー》が現れる。

『正解ペン！僕、ここに捨てられてずっと一人ぼっちだったんだペン…でも、君が拾ってくれてよかったペン！』

俺はまだお前を連れていくといったわけじゃないんだが…仕方がないか…

『僕は《ペンギン・ソルジャー》のペン太だペン！』

ペン太…捻りがねえ…。

『君の名前はなんだペン？』

図々しく名前聞いてきやがった…

「りよ、凌牙だ。神代凌牙…。」

『リヨーガペンね！リヨーガはデュエルアカデミアの受験会場に行くペンか？』

「ああ。だが肝心の会場までの道がな…」

『それなら僕わかるペン！』

ペンペンペンペンうるせえな…

しかし道がわかるのか…こいつを拾ったのはラッキーだったかもな。

「道案内を頼んだぞ。」

『任せるペン！』

俺はペン太の言う通りの道を走っていく。

「よし、ここか…」

今にも受付が片付けようとしている。

「ちょっと待ったー！！／待ってくれ！」

何者かと俺の声が重なった。

「「え？」」

「受験番号10番の神代凌牙だ。まだ間に合うか？」

「受験番号110遊城十代！セーフだよね！」

「なぜ遅れたんだい？」

試験官らしき男が聞いてくる。

「それは…」

さすがに道に迷っていたと正直に言っても受験を受けさせてくれるかわからない…

アカデミア入学はかなり厳しい門のはずだ…

「俺さ俺さ！電車が遅れちゃってさー！こいつも一緒なんだ！」

隣にいた奴が言う。

「そうか。早く行きなさい。」

「はい！」

茶色い髪の奴が俺の手を引っ張っていく。

「どうして助けた？」

「だって、お前困ってただろう？俺そーゆつの弱くてさ」

へラへラ笑うソイツ…どこかで見たような…

「で、実際はどーなんだよ？」

「……道に迷った。」

「あ、やっぱし？そ〜ゆうことだろうと思ったぜ〜」

ああ、そうか。こいつはアイツに…遊馬に似てるんだ……

「あ、俺、遊城十代！お前は？」

「…神代凌牙。」

「凌牙か〜！」

しかし、遊城十代…どこかで聞いたことが…

その後アイツは1番は俺とかほざいて試験官とデュエルしに行った。

「しかし、E・HERO使いとはな…」

ん？E・HEROに遊城十代？

！？！？！？！？

「アカデミアの英雄…遊城十代…！」

思い出した…デュエルアカデミアの英雄であり伝説のデュエリスト、E・HERO使いの遊城十代…！
ということはここは過去…？

しかし何で…

いいや、今はこの受験を乗り切ることを考えるんだ。

『受験番号10番、神代凌牙君。デュエルフィールドまでお越しください。』

「俺の番か…」

「ワクワクするデュエル、期待してるぜ！」

行き際に十代が手を振ってきた。

「…ああ。」

まあ、ガツカリはさせねえよ…

「アナタの試験はこのワタクシ、クロノス・デ・メディチが行うノ
ーネー！」

「さっさと始めようぜ…」

ここのボタンを押したらトラップでこれがマジックで…よし、覚え

た。

「グ、グヌヌ……！後悔しても知らないノーネ！」

「デュエル！」

凌牙

LP4000

クロノス

LP4000

「ワタクシのターン、ドローニョ！ワタクシは《トロイホース》を召喚するーノ！」

トロイホース

効果モンスター

星4/地属性/獣族/ATK1600/DEF1200

効果・地属性モンスターを生け贄召喚する場合、

このモンスター1体で2体分の生け贄とする事ができる。

「さらに《二重召喚》を発動しますーノ！」

二重召喚

通常魔法

効果・このターン自分は通常召喚を2回まで行う事ができる。

「この効果でワタクシはこのターンに2度の召喚が行えますーノ！
《トロイホース》を生贄に…《古代の機械巨人》を召喚するーノ！」

古代の機械巨人

効果モンスター

星8 / 地属性 / 機械族 / ATK 3000 / DEF 3000

効果・このカードは特殊召喚できない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

このカードが攻撃する場合、

相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

「…《古代の機械巨人》…」

「ワタクシはカードを1枚伏せてターンエンドなノーネ！」

クロノス

手札・2枚

モンスター・古代の機械巨人

魔法、罠・1枚

「俺のターン、ドロー！」

よし、この手札なら俺のあのエクシーズモンスターを場に持っていける。

しかし、ここは過去だぞ？未来のカードを使っているのか？

「なるようになるか…。俺は《キラ・ラブカ》を召喚！」

『キラー！』

キラ・ラブカ

効果モンスター

星3 / 水属性 / 魚族 / ATK700 / DFE1500

効果・自分フィールド上に表側表示で存在する

魚族・海竜族・水族モンスターが攻撃対象に選択された時、墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する。

攻撃モンスター1体の攻撃を無効にし、

その攻撃力を次の自分のエンドフェイズ時まで500ポイントダウンさせる。

「キラー・ラブカ」の効果は1ターンに1度しか使用できない。

「さらに《シャーク・サッカー》を手札から特殊召喚！」

シャーク・サッカー

効果モンスター

星3 / 水属性 / 魚族 / ATK200 / DFE1000

効果・自分フィールド上に魚族・海竜族・水族モンスターが召喚・特殊召喚された時、

このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

このカードはシンクロ素材とする事はできない。

「そのような弱小モンスター、ワタクシの《古代の機械巨人》の前では無力ですーノ！」

「それはこれを見てから言うんだな…！俺はレベル3の《キラー・ラブカ》と《シャーク・サッカー》をオーバー・レイ！」

2体のモンスターが青い光となってブラックホールを思わせるような穴に吸い込まれていく。

「な、何なノーネ！？」

「エクシーズ召喚！！」

「『エクシーズ召喚！？』」

「現れる、『潜航母艦エアロ・シャーク』！！」

潜航母艦エアロ・シャーク

エクシーズ・効果モンスター

ランク3 / 水属性 / 魚族 / ATK1900 / DEF1000

レベル3モンスター×2

効果・1ターンに1度、このカードのエクシーズ素材を1つ取り除いて発動する事ができる。

自分の手札の枚数×400ポイントダメージを相手ライフに与える。

「いくぞ、『エアロ・シャーク』のモンスター効果発動！1ターンに1度オーバーレイ・ユニットを1つ使い手札の枚数だけ相手プレイヤーにダメージを与える！」

ミサイルが発射されクロノスにダメージを与える。

「又オ！？」

クロノス

LP2400

「俺はカードを2枚伏せてターンエンド。」

これでクロノスが上手くハマってくれたら俺の勝ちだな。

凌牙

手札・2枚

モンスター・潜航母艦エアロ・シャーク

魔法、罠・1枚

「グヌヌヌ…ワタクシのターン！ドローニョ！ワタクシは《古代の機械巨人》で《エアロ・シャーク》に攻撃するノーネ！アルティメット・パウンド！」

「ここまで上手くはまってくれとはな…っ！」

エアロ・シャークが破壊される。

凌牙

LP2900

「トラップ発動、《ヘイト・クレバス》！」

ヘイト・クレバス

通常罠

効果・自分フィールド上に存在するモンスター1体が相手のカードの効果によって破壊され墓地へ送られた時、相手フィールド上に存在するモンスター1体を選択して墓地へ送り、その元々の攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

「このカードは自分のモンスターが破壊されたとき相手のモンスターを選択し墓地に送る！」

「何でスート！？」

「俺は《古代の機械巨人》を選択！さらに墓地に送られたカードの

攻撃力だけ相手はダメージを受ける！」

地面が割れ古代の機械巨人が落ちていく。

「ま、マンマミーヤア~~~~！」

クロノス

L P O

「フンツ……」

実技担当責任者がこのザマか。聞いて呆れるぜ……

『リヨーガ、凄いペン！』

「ああ、サンキュ。」

ハア、一応合格は確定だろうが、これからどうやって元の世界に戻るのか……

「スゲエぜ凌牙！あのエクシース召喚！カッコ良かったぜえ！！」

まあ、とりあえずはこの生活を楽しんでみるか。

< かつとピングだぜ！ >

フツ……そうだな遊馬。諦めるな、かつとピングだったな……。

???SIDE

なんでシャークがこの世界にいるんだ！？
しかもずいぶん可愛い精霊を連れてたな…

まあいいや。アイツも俺が倒してやるぜ！

俺の蒼き流星デッキでな！

ナンバーズ1 入学試験デュエル！VS古代の機械巨人（後書き）

凌牙「アカデミアについた俺はペン太と共に学校内を見て回っていた。するとそこには何と？がいただと…！？」

次回『転生者・四堂燐音』

ペン太「次回もかつとビングだペン！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8169y/>

遊戯王GX 未来から来た鯨とデュエルアカデミアーのデュエル馬鹿

2011年11月24日19時56分発行